

事 務 連 絡
令和元年 8 月 5 日

大雪山国立公園 表大雪地域山岳関係者 各位

環境省 東川自然保護官事務所

大雪山国立公園 表大雪地域
登山道関係者による春季情報交換会について

国立公園行政の推進について、御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、6月20日に東川町せんとぴゅあ. 1にて開催しました標記の議事概要及び議題で意見交換を行った登山者・利用者に対する登山道状況等の情報提供についての資料を送付させていただきますので、ご査収ください。

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町 1-13-15
環境省 北海道地方環境事務所
東川自然保護官事務所（齋藤、渡邊）
[TEL:0166-82-2527](tel:0166-82-2527) FAX:0166-82-5086

大雪山国立公園表大雪地域 登山道関係者による春季情報交換会 概要

日 時：令和元年6月20日（木）13：00～16：00

場 所：東川町せんとぴゅあ. 1

出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち、上川総合振興局南部森林室 北村管理係長、山岳ガイド 池永氏、旭川東警察署 有川警部補が欠席、北海道大学大学院地球科学研究院 王氏、北海道新聞 山村氏が追加出席）

1. 開会

2. 挨拶

■上川自然保護官事務所（榎）

- ・登山シーズンがいよいよはじまるが、本日は各団体の活動の概要を把握・認識して、それぞれの活動に役立てていただきたい。
大雪山国立公園は今大きな変化の只中にある。情報交換会についても大雪山国立公園連絡協議会の下に位置する登山道維持管理部会として改変することを、今年度具体的に検討していきたいので、皆様のご協力をお願いしたい。
今日は新しい取組を二つしている。一つ目はインターネットを活用したペーパーレス化の取組。二つ目は後半には皆さんから募集したテーマについての議論。新たな取り組み二つについても最後にアンケートを記入していただき、皆さんからのご意見を伺いたい。この情報交換会が皆さんにとって有意義な集まりとなるように我々も考えていきたい。

3. 情報交換

(1) 各団体からの報告

- ・事前に各団体から提出のあった今年度の活動予定については資料1に取りまとめ、資料1に基づき、上川中部森林管理署、公益社団法人日本山岳会北海道支部、美瑛山岳会、富良野山岳会、山岳レクリエーション管理研究会、山樂舎 BEAR、NPO 法人大雪山自然学校、NPO 法人かむい、旭川東警察署から説明があった。
- ・資料1とは別に資料を提出した環境省、上川南部森林管理署、上川総合振興局環境生活課、上川町、大雪山国立公園パークボランティア連絡会、北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺教授、北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授、山のトイレを考える会、合同会社北海道山岳整備、一般社団法人 大雪山・山守隊、大雪と石狩の自然を守る会から資料説明が行われた。なお、作業予定箇所・資料を提出し欠席したNPO アースウィンド、NPO 法人 ezo rock は東川自然保護官事務所より説明を行った。
- ・資料に記載された内容の他に補足説明がなされた内容や資料提出がなかった団体からの発言は、以下のとおり。
(出席した上川総合振興局上川南部森林室、東川町、旭岳ビジターセンター、大雪地区自然公園指導員連絡協議会、株式会社りんゆう観光、山岳ガイド協会表大雪地区連絡調整室、大雪山倶楽部から資料提出はなかった。)
- ・資料に記載された内容の他に補足説明がなされた内容や資料提出がなかった団体からの発言は、以下のとおり。

■環境省

- ・6月24日(月)から層雲峡、東川、上士幌、屈足のセイコーマートで大雪山国立公園オリジナル携帯トイレを販売決定。

■上川総合振興局環境生活課

- ・地域政策推進事業は平成27年度から今年度までの5年間の事業で、今年度が最後の年となる。
- ・登山道整備講習会は今年度だけ新たに行う事業となり、長年高山植物を研究された工藤岳先生をお呼びして、近年各地で行われてきた登山道補修について植物の専門家の立場から確認いただき、評価や意見をいただく。8月20日(火)実施予定。場所は未定だが、黒岳雲の平や旭岳裾合平などが候補地となっている。詳細が決まった段階でお知らせする。

■上川町

- ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会が行う白雲岳避難小屋管理運営について、衛星携帯を配備することで通信環境を改善し、気象状況や道路状況の共有を行うことになった。固定電話から白雲岳避難小屋管理人へかける場合は電話番号：010-88216-6876-9799へ。今年度管理人はまもなく小屋へ常駐する。役場と小屋で通信テストを6月25日(火)実施予定。

■美瑛町

- ・十勝岳避難小屋の維持管理、望岳台・白金温泉観光センター前の携帯トイレ回収ボックスの維持管理、北向沢徒渉点のロープを鎖に交換、望岳台防災シェルターの観光案内とソフトクリームの販売廃止。

■美瑛山岳会

- ・事業執行路線が美瑛町では2箇所しかなく上川総合振興局環境生活課と相談するが、去年は十勝岳で4件道迷い遭難があったため薄くなった登山道のペイントを行う。大雪山縦走線の十勝岳から美瑛岳手前の鋸岳コルまでの標識の整備、登山道のペイントを行う。

■富良野山岳会

- ・原始ヶ原滝コースの2箇所の橋整備については関係者と協議を進めているが、3年目となるがスムーズにっていない。一般登山者からも原始ヶ原滝コース整備をしてもraitたいと要望があるため、1本でも良いから橋を架けたい。

■(有)風の便り工房

- ・これまで行っていた登山地図の執筆やヒグマ情報センターの運営は昨年までで全て手を離れた。今まで大変お世話になりありがとうございました。

■一般社団法人 大雪山・山守隊

- ・大雪山・山守隊は登山者を巻き込んだイベントを企画・運営している。5月29日(水)に裾合平ポールマーキング、ソリでの資材運搬は終えたが、ポールマーキングは今後巡視で点検・改修をして、運んだ木材は8月に東川町の中学生を施工予定。

- ・高原温泉での一般登山者と施工する機会を追加で検討している。
- ・登山道を動画で撮影する取組を実施中。

■ 合同会社 北海道山岳整備

- ・高原温泉ヒグマ情報センターを運営することになった。この20年、風の便り工房がヒグマとの軋轢もなく事故もない成果は素晴らしいものだと思っているが、これからは情報発信を正しくしていかないと色々なトラブルが起こってくると考えているので、先手を打って情報を出しつつ、登山道のインフラ整備をしっかりとしていきたい。

■ 山樂舎 BEAR

- ・5月25日(土)に大雪山と石狩川の地名と探険史に関する講演を東川町で行った。大雪山・山守隊と協働して大雪山の歴史を掘り起こしていくイベントを続けていく。

■ 大雪と石狩の自然を守る会

- ・外来生物に関する取組で、マルハナ市民ネットと協働でセイヨウオオマルハナバチの定点観察・花資源調査を行っているが、大雪山に通じる主要道路の花資源調査を行っている。今年度で17回を迎えるので、一区切り着くと思っている。

■ NPO 法人 大雪山自然学校

- ・姿見の池園地内の巡視、レクチャー業務、周辺の登山道の情報発信、携帯トイレの販売、できる限りでの遭難事故の対応、外来生物セイウタンポポ、キタブキの防除作業、天人峡羽衣の滝遊歩道の草刈り、トイレ掃除を予定。
- ・姿見の池園地内のテーブル、ベンチがボロボロなので何基か補修を予定している。上川総合振興局環境生活課をお願いをしていて、問題がなければ、これらの木材をそのまま補修に使えると思う。
- ・携帯トイレブースが壊れているため、補修を予定している。

■ NPO 法人かむい

- ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会から委託され、黒岳、赤岳、緑岳で巡視を行い、GSSと協働で連携を取りながら活動していく。
- ・今年度から自社で無線機、衛星携帯の整備を行ったので、遭難対策に取り組んでいきたい。
- ・黒岳バイトトイレの維持管理を受託。

■ 旭川東警察署

- ・6月15日(土)旭岳姿見駅にて旭岳ロープウェイ、大雪山・山守隊、大雪山自然学校の皆様と安全登山の啓発活動を行い、6月18日(火)北海道新聞の朝刊にも掲載され、新聞紙面でも安全登山の啓発活動を行っている。
- ・6月16日(日)は黒岳でも安全登山の啓発を実施予定だったが、黒岳ロープウェイが強風により運休のため中止したが、7、8月も実施していく。
- ・6月18日(火)黒岳9合目で東京から来た60代男性が下山中、雪渓斜面を50m滑落し、右足首を骨折した。気流が良くなく、ヘリでの捜索も難航したが、燃料を減らし無事に男性をピックアップし病院に搬送した。黒岳にはまだまだ雪渓が残っているため、黒岳ロープウェイにはアイゼンを置いていただき、アイゼン携行の普及活動を行っていく。

(2) 質疑応答

■山樂舎 BEAR

- ・NPO 法人かむいさんにお聞きしたいが、ニセイカウシュッペから朝陽山への復活の記事が新聞や Facebook などに掲載されているが、あの道は未執行区間なので、今後は事業執行をどうするのか、長い道の維持管理をどうしていくのか教えて貰いたい。また、作業部会でお話されていないが、その経緯を聞かせて貰いたい。

→■NPO 法人かむい

- ・クラウドファンディングで支援をいただき、ササ刈りを行った。今後、環境省・林野庁とも調整したが、自社での事業執行はなかなか難しいので、上川町に事業執行の名前を出して貰いたいとお願いしている。作業部会では申し訳ないが話はしていなかった。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

- ・私共で、アンケート調査を予定しているが、渡辺先生や環境省の方でもアンケート調査を行う予定となっているはず。登山者がいくつも同時にアンケート調査を受けるのは良くないので、アンケートをやると決まった段階で調整して共有できればと思う。大体どのアンケートでも入山場所と下山場所の項目はあるはずなので、それを共有し合えば、お互い切れ目なくデータが取れると思う。

→■上川自然保護官事務所

- ・昨年度末にヤマケイオンラインというインターネットで協力金について登山者の方がどう思っているかのアンケートを行ったが、今回は登山者に直接アンケートを行いたい。他にも皆さんがやるアンケートと、時間・場所・内容を調整して効率的に効果の高いものしていきたいので、よろしくお願したい。

■NPO 法人大雪山自然学校

- ・5月29日(水)裾合平ポールマーキング作業について、その場でも言わせていただいたが、裾合平はこの時期遭難が発生し易い場所で、今回のように大々的にポールマーキングをやることを外に募集をかけて、ポールマーキングがあるから安全と思われることが怖いと思っている。道迷いだけが遭難事故に繋がるわけではなく、滑落・踏み抜き・低体温症もある。今まではビジターセンターの職員が地図とコンパスを使って、正しい方角を歩けば次のマークが見つかるというやり方で設置をしており、マークがあることを知らせてはいなかった。それが、今回のように作業する人を募集するだけで裾合平の宣伝になってしまうので、それが事故に繋がるとは全く思っていないが、ポールマーキングが毎年行われていると思われると認知されると危険なことだと思う。

→■一般社団法人 大雪山・山守隊

- ・大雪山・山守隊の管理の方向性をお知らせしたい。大雪山・山守隊では、登山道の色々な部分を隠すべきではないと思っている。危険な場所は危険、安全な場所は安全。人によって安全の感覚は違うが、登山道は入ったら危険だから入るのではなく、色々な管理はしているがあとは自己責任で行ってください、という場所だと思っている。ポールマーキングは一昨年くらいから始めたが、できれば自分たちがいなくなったとしてもこのポールマーキングが継続されていくように、地域で共有してこの時期になったら登山者のためにやっています、という風になって欲しい。大雪山の管理はみんなで作っているというアピールもかねて宣伝していただきたいという思いでやった。自

分としては登山者に来て欲しい、と思う。どういう危険があるかは自分はよく知っているが、それでも装備を揃えて、山が素晴らしいところだと知って欲しい、というのが自分の根底なので、それを踏まえた整備や情報発信を行っていききたい。来なければ自然が保護される、来なければ事故が起きない、という考えも昔からあるのは知っているが、その考えを突き詰めていくとどうなるのかを考えると自分は賛成できない。大雪山としてどういう風に情報発信をしていくべきか議論があっても良いと思う。今日は情報発信の一元化というテーマだったので、今回のこともテーマとして取り上げて欲しい。

→■NPO 法人大雪山自然学校

- ・今の状態だと呼び込んでいる感じがする。今までも危険だから行くなとは言っていないが、行く人は真冬でも行く。あそこが特殊なのはロープウェイですぐに来ることができる場所。監視員もいるし、地図展示もあって、誰でも簡単にいくことができる。散策路から登山道に入ると、誰でも行って良い、誰でも行けてしまう、となりその人の命までは責任を持ってない。管理のアピールが先行して、もう少し山に入る人が考えて、自分が入れるか入れないかはその人が自分で判断するべきなので、マーキングをしました、だから行けます、というのは無責任だと思う。決して、山を危険だから閉じてしまうということではなく、危険を知らない人が行ってしまっただけで危険を知る前に巻き込まれてしまう可能性がある。

→■東川自然保護官事務所

- ・裾合平ポールマーキングは環境省と大雪山・山守隊が主催でやらせてもらった。主催でやらせてもらった認識としては、一番が遭難防止のための設置させていただいて、ポールマーキングをしたことは関係者や利用者にお知らせはするが、それをもって安易に行けますということをお伝えしたいわけではない。裾合平はまだ雪があり、きちんとした装備ではないと行けないというアナウンスをした上で、情報発信をしていく。ポールマーキングもこれから維持管理をして付けっぱなしにするわけではなく、何週かに一回管理を行う前提の元やっている。登山者の方には誤解を生まないように、皆さんの懸念がなくなるような情報発信をしていきたい。関係機関の考え方が違うのはご尤もだと思うので、そういった話も引き続き、関係者で話しながらどういったやり方がいいか、場所によって皆さんで話し合いながらやっていきたい。

→■NPO 法人かむい

- ・去年から大雪山・山守隊の真似をさせていただき、赤岳でもポールマーキングするようになった。赤岳は道迷い防止のためもあるが、第一雪渓はトラバースの滑落が危険の場所になっている。雪のカットをやってはいるが、1人か2人でやっているのでは作業が間に合わない。ポールマーキングすることで、全員同じ場所を歩いてくれるのでカットの軽減になって、危ない場所だけカットすれば良くなる。今年度から緑岳第一、第二お花畑、銀泉台は第一・第二・第三雪渓まで、北鎮岳、北海沢から明石川付近にポールマーキングをする予定。第一、第二お花畑、緑岳の方はほぼ設置は終了している。

→■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

- ・今の議論は非常に大事な問題で、すぐに結論が出る話ではないが、部会化されて色々議論されるにふさわしい話題だと思うが、さきほども旭川東警察署の方が仰っていたが、黒岳でアイゼンを扱っているという話も同じで、どの程度の方にどこまでの情報

提供が必要か、大雪山自然学校さんが心配するように呼び込んでいると感じるのか、作業と管理のバランスは難しい。今回のポールマーキングにしても、事故を防ぐためにやっているが、場合によっては事故を誘発させる面を認識した上で、更にどういう登山者が実際に来ているのか、普段は姿見の池周辺をまわっている人が実際に裾合平まで行くのか検証しながら、皆さんで時間を取って議論したいと思った。

■NPO 法人大雪山自然学校

- ・遭難事故の多い旭岳エリアからのお知らせで、東川町のアウトドアセレクトショップのトランジットより、会員制検索ヘリサービス「ココヘリ」の販売することとなった。また、もうすぐレンタルも開始される予定。旭岳ビジターセンターでもレンタルの予定がある。レンタルは、電波発信端末の子機を貸し出す。遭難が発生する日は、ヘリが飛べない濃いガスがかかっていることが多いため、姿見駅にトランジットさんから電波受信端末（親機）を2基借りることとなった。旭岳の入林届も変更し、ココヘリのID No.の欄を設け、ココヘリの導入を始めている。ココヘリは、遮蔽物があると電波が受信できないため、ヘリでの検索は良いが、地上からの検索は、問題が多く、東川のトランジットを中心に周辺登山ガイドと一緒に数年かけて、受信できるエリアマップの作成を行う話が出ている。ただし、東川町にて、トラックトレックの導入の話もあるため、今後、どちらかを使用するか、両方活用するのか、未定であり、エリアマップの作成について今後検討を行う予定である。

→■旭川東警察署

- ・「ココヘリ」について、北海道警察航空隊にて、親機3台を保有している。ココヘリの会社と連携してID NO.がわからなくても検索できる親機となっている。地上部隊も親機が2台あり、地上でも検索できるようになっている。

4. 募集したテーマについて議論

- ・登山者・利用者に対する登山道状況等の情報提供について

■東川自然保護官事務所（齋藤）

- ・情報交換会を行う前に、議論したいテーマのアンケートを取らせていただいた。一人何問でもチェックを付けて良いとし、アンケート結果は以下の通り。

【投票結果】

- 15 票 登山者・利用者に対する登山道状況の情報提供（可視化・一元化）
- 10 票 外国人登山者・利用者に対する情報提供（見所や登山道の情報）
- 9 票 登山道、老朽化した施設の補修に関する資金の確保
- 5 票 登山道の適切な維持管理の実施に必要な基盤形成（未執行区間の解消）と円滑な手続きについて
- 4 票 登山道補修技術の関係者・団体間での共有
- 4 票 管理運営に関わる者の人材育成
- 4 票 避難小屋等施設を整備又は改修に関する、関係者・利用者などへの情報提供のあり方
- 1 票 登山者・利用者に対する利用マナーの指導

今回は、一番投票が多かった「登山者・利用者に対する登山道状況の情報提供（可視化・一元化）」を議題していきたいが、二番目に投票が多かった「外国人登山者・利用者に対する情報提供（見所や登山道の情報）」も関連する議題なので、一番・二番併せて議論したい。また、自由記述欄を設けたところ以下の回答があった。

【自由記述欄に記載のあった回答】

- 入山料の検討
- 登山者も含めた情報収集について
- 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言実現に向けた取組
- 登山道のあるべき姿（補修優先箇所および補修の具体目標）について
- NPO等の民間が事業執行者になることの定義、明確な道のりや無償で借り受けできる体制作りについて
- 安全登山啓発活動について

自由記述欄にいただいた意見・アンケート結果は、今後情報交換会の議論の項目として蓄積していきたい。

- 「登山者・利用者に対する登山道状況の情報提供（可視化・一元化）」の議論の進め方としては、大雪山国立公園連絡協議会のHP内で、一元的情報発信のWebサイトを今年度から試行的に取り組む予定なので、その紹介をする。その次に情報提供の課題の議論を深めていきたい。

・「一元的な情報発信の取組」について意見・質疑等

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺教授

- 検索したときに、このHPがトップに来るように、お金をかけてするのか、努力してトップに来るようにするのかかわからないが、トップに来るようにクリアしていかないと有効にならない。当面は関係団体に相互リンクを張って貰い、色々な情報があるということを紹介して貰うようにすべき。
- 利用者の立場になった場合は、山中のネット環境が悪い場所で画像の重いファイルは開けず、見栄えが良いサイトであるほど重たいので、ファイルサイズを軽くするよう努力して欲しい。
- 入山前に入手する情報だけでなく、現場で電波がない状況でも使える方法を考えて貰いたい。入山前の情報と、現場の情報をきちんと両方を考えることをしていく必要がある。
- 何故、同時に英語版でも作らないのかと強く思った。

■山岳ガイド協会表大雪地区連絡調整室

- 交通アクセスのバス会社のリンクは、バス会社のトップページが直接張られることが多いが、本州の方が登山道に関わる路線のページに行くのは相当時間がかかってしまう。登山道に関わるバスの路線は限定的なので、ダイレクトに登山道に関わる場所のリンクを張って欲しい。そうしてもらえると、一番重要な登山道の情報に目が行きやすくなる。利用しやすいリンクの張り方にして欲しい。

■NPO 法人かむい

- 現在の、大雪山国立公園連絡協議会HPのアクセス数の推移を知りたい。また、このHPは一方向的に情報を書いて利用者が見るだけのHPになると思うが、利用者がコメントなど書き込めるようにすると、利用者は何を求めているかがわかるし、情報提供側もより濃い内容になると思う。

■NPO 法人大雪山自然学校

- 事前に情報を調べないで直接現地に来る人もいるので、入山届のところにHPのQRコ

ードを張ってそこから情報を入手できるようになると良い。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

- ・基本的な情報で、最新の情報を提供するとしているが、電波が届かない場所についての情報提供として、各避難小屋等が使えて、黒岳、白雲の避難小屋は管理人がいるため、不要であるが、情報が変わらないものについてはラミネート加工等して設置したら良いと考える。
- ・英語はあった方が良いと思う一方で、知床情報玉手箱は外国人はアクセスしていないことが分かった。外国人は違う情報源を使っているようで、外国人が使っているサイトからリンクを張って貰うなど検討したら良い。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 小林氏

- ・環境省が他団体のサイトを巡回してあげていくまとめサイトとしての要素が強いのと思うが、どれくらいの頻度で巡回して発信していくのか？関係団体が情報を更新したときに合わせて環境省に連絡を入れると環境省の負担も軽くなると思った。

■上川自然保護官事務所（榎）

- ・更新の頻度は正確には決めていないが、山のシーズンだけなので日々見ていきたい。他団体が更新したら環境省にお知らせいただくという意見があったが、そうしていただけるのであれば有り難いが、それぞれ忙しい中やる必要があるのであまり無理はできないと思う。

■山岳ガイド協会表大雪地区連絡調整室

- ・ニセコとか本州に行く外国人向けに「アウトドアジャパン」という雑誌を外国人が作っている。基本的には、日本人が読んでいる情報を同じような内容が掲載されているが、誌面のページ構成が日本で作られている誌面と全く違った構成となっている。日本人が見やすいページ構成を、そのまま英語にするのではなく、同じ内容であっても欧米人が見やすいページ構成やレイアウトを外国人クリエイターを交えて作成している方が利用されやすくなると思う。
- ・重要なお知らせ部分には、大雨等で林道が崩壊して行けないといった旬な重要な情報を前に持ってくると分かりやすいと思う。

■山のトイレを考える会

- ・登山者にとって必要なのは林道状況。現在は、各森林管理署が、エリア毎に分かれ、森林管理署専門の地図を載せて林道状況を掲載しているが、一般者が見ても理解が難しいので、一般者が見ても分かるような林道状況の地図を載せて欲しい。

- ・「一元的な情報発信の取組」以外の課題等についての意見

■大雪山倶楽部

- ・ガイドをしながらブログを更新して、その中で危険度の高い情報を発信して啓発している。残雪期、アイゼンを持っているだけで履き方も分からない人もいて、アイゼンをつけたことで危険になることもあるので、事前に練習してきて欲しい。そういった点も、ブログの中で啓発していきたい。

■山岳レクリエーション管理研究会

- ・事実だけ発信するのか、事実+アドバイスも発信するのか違ってくる。例えば、黒岳9合目は現在は雪壁で傾斜が45度位だというのは事実だが、ピッケル・アイゼンが必要ですよといったアドバイスまで出すのか、それは登山者の技量によって違ってくる。どこまで情報を出すのか、後々責任問題もあるので考えた方がよい。私は事実だけでよいと思う。

■上川中部森林管理署

- ・現在、想定しているのは無雪期だと思うが、積雪期も想定しているのか課題になる。

■一般社団法人日本山岳会北海道支部

- ・ロープウェイがある場所は、観光客も来ているが、長靴を貸し出ししたりすると、登山者に豹変することがある。観光客なのか登山者なのか分からない人たちへの、現場での情報発信をした方がよい。

■大雪と石狩の自然を守る会

- ・スマホとかインターネットとか情報に早い人はいいが、情報から遠い人へどうやって情報を伝えるか課題。旅行者は出発前は色々情報を調べてくるが、出発してから、登山口までの最新の情報をどうやっていくのか検討した方がよい。

■山樂舎 BEAR

- ・水面下での遭難も少しあると思う。遭難する人の多くは、頭の片隅にも自分が遭難することは想定していない人で、情報に関心がないレベルに人もいるので、どのように関心を集めさせるかも考えた方がよい。

■山岳ガイド協会表大雪地区連絡調整室

- ・スマホが使えない人には周辺のホテルや宿泊施設で、そのエリアの情報は常に掲載されているのがよい。

■北海道山岳整備

- ・こういった情報が全て集まると凄いなと思うが、誰がやるのかが肝心。おそらく環境省の誰かなんだと思うが、それほど暇ではないだろうし、取りまとめる人で足りるのか？中途半端な情報発信だと逆に見なくなる。外国人デザイナーを雇った方がよいという話もあるので、こういうことにお金をかける方に動いてもよいと思う。

■富良野山岳会

- ・富良野岳・原始ヶ原に登りたい人の問合せは私の所に来るが、一番多い質問は「今日、明日に登れますか」と言う年配の方からの質問。そういう人にわかりやすく情報を伝えないと行けない。画面一杯の情報をインターネット上に出して、それを見たからといって満足する人はいない。今は通行止めなのか、登れるのか。現場の一番近い山岳会か北海道山岳連盟に質問が入る。そういった山岳会の組織力、連絡網の充実を活用するのは大きな利益になる。各山について、各山岳会・会長の名前と連絡先を掲載するのはどうだろう。

■上川総合振興局環境生活課

- ・ネットでの情報発信も重要だと思うが、ネットを使わない人や外国人の方へは現地情報を確認することが多い。その場合、ビジターセンターが大きな役割になる。十勝

岳連峰に登山される方への情報は課題だと思っているが、望岳台シェルターが情報提供の場として大事だと思う。環境省はシェルターと関わりがないと思うので、地元任せになっていると思う。十勝岳温泉凌雲閣への情報提供支援ができていないのがもったいないと感じた。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

- ・他のエリアでは県単位や山域の単位では情報提供をしており、雑誌ヤマケイや岳人の夏山ブックに山の情報を掲載してもらっており、その誌面は2月頃に作成している。本州から来る登山者にとっては情報源だと思うので、その点も踏まえて欲しい。

■（有）風の便り工房

- ・CM等で「この後はWEBをご覧ください」等表示されて、その後に見る人はいないし、山に来る人でもネット用語を分かっている人は少ないと思う。ネットを使わない人たちには、トムラウシ東大雪荘のホワイトボードや、夕張岳登山口の伝言板のような、登山者が情報を書き込んでいくものが、伝わりやすい。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

- ・関係者間で情報共有ができていない。大雪は縦走する人が多いので、今回やろうとしているサイトは関係者間が情報共有する場になるのではないかと聞いていて思った。関係者間の情報のムラがなくなる。
- ・どこまで情報・アドバイスを出すか、線引きは大事になってくる。逆に人が呼び寄せられて、意図しない事故が発生することもある。発信したりするときに、誰が判断するのか、それぞれの団体が流しているものを間接的に流すだけで良いのか、少し不安な気がする。とりあえず色々試していけば良いと思うが、議論していく必要がある。

■上川自然保護官事務所（榎）

- ・私も重要だと思うが、蓄積が大事だと思う。どういう情報の選別と発信が、そのような結果に結びつくのかについては、やりながら見ていきたい。何シーズンかやれば見えてくると思うので知見を貯めて行きたい。

■山岳レクリエーション管理研究会

- ・①大雪山グレードにそって事実のみを情報提供する、②提供する情報内容については登山道管理者がいるところは管理者が先ず判断する、③情報内容で議論のある情報(例えば希少種情報など)は環境省が最終的に判断する、の3段階でやってみればと思う。

■上川自然保護官事務所（榎）

- ・複雑な手順にすると凄く手間がかかってしまうので、来た情報に関しては、管理者がいる場合はその管理者の判断を仰いでいく。色々な情報が来ると思うので、選別しながらやっていく。

■NPO 法人かむい

- ・情報を線引きしていく時点でリアルタイムになっていないのではないかな。

■東川自然保護官事務所（齋藤）

- ・事実については早めに公表していく。事実に対するアドバイスはタイムラグがあったり、管理者判断になったりする。植生や装備に関する際どいものは蓄積と相談をして

いき、なるべくリアルタイムに情報発信をしていきたい。

■上川自然保護官事務所（榭）

- ・提案させていただいた一元的な情報発信については色々アドバイスをいただいた。出したのはイメージなので、これから作業をしていき、デザインの見栄えは良くする。いただいた意見をできるだけ反映させたい。リアルタイムな情報発信は重要であるが、その中には色々な判断が必要な場合がある。そこは試しながらやっていきたい。管理活動の発信をどうするのか、どういう風なやり方でやったらいいのかも意識してやっていきたい。
- ・ネットを使わない人も一定数いるので、ビジターセンターを活用して運用していきたい。また今後とも議論をしていきたい。
- ・試行的にやっていく情報発信も環境省でやりつつ、やった結果を情報提供しながらこういう場で皆さんと議論していきたい。冬の情報交換会で深掘りできればと思う。

■美瑛山岳会

- ・情報提供する人は誰なのか？

■上川自然保護官事務所（榭）

- ・情報交換会に出席している登山道関係者の皆さんのブログやHPを我々が拝見させていただく。

■上川総合振興局環境生活課

- ・十勝岳などの火山情報が大事。観光の風評被害の兼ね合いもあるので、この場には火山関係者がいないので議論ができないが、環境省と気象庁と相談し情報提供の仕方をどうするのかしていった方が良い。

5. 話題提供

- ・登山道維持管理部会の運営について
- ・歩道等位時間里作業実施手順マニュアルについて

資料に沿って上川自然保護官事務所より説明を行った。特に意見、質問なし。

6. 閉会

募集したテーマについて議論

登山者・利用者に対する登山道
状況等の情報提供について

出席者からの意見結果とりまとめ

① 「一元的な情報発信の取組」について意見・質疑等

- ・ 検索したときにトップに来るように、相互リンク。入山前の利用者への発信。
- ・ ファイルサイズ軽く。重たいと現場では見られないので
- ・ 電波がない場所での情報入手
- ・ 英語
- ・ バス、登山に関する路線にリンクを張るように（利用しやすいように）
- ・ 大連協アクセス数、コメント機能
- ・ QRコードが現場にあるとよい
- ・ 各施設の基本的な情報
- ・ 外国人のアクセスどこからしているのかを分析した上で対応。外国人の見やすいページ構成がある（例：アウトドアジャパン）
- ・ 道路のアクセスの最新情報。登山者でも林道道路の場所がわかるような図
- ・ 更新の頻度は。
- ・ とりまとめる体制。中途半端な情報発信まずい、お金をかけてもよい。

② 「一元的な情報発信の取組」以外の課題等について意見

- ・ 遭難対策関係情報、登山装備道具の使い方の周知
- ・ 事実をいうのか、アドバイスまで含めるのか、どこまで情報を出すのか。
- ・ 積雪期を対象とするのか、しないのか。
- ・ 観光客か登山者かわからない人への対応注意喚起
- ・ 情報から遠い人にいかに伝えるか。登山口で現地で変化する情報の提供も必要。
- ・ 「水面下での（把握されていない）遭難」そもそも情報を集めようとしない、関心がない人に関心を集めさせることが必要
- ・ **宿泊施設**に情報が提示されていること、
- ・ 「明日登れるか」という年配の問い合わせが多い。現場の山岳会の人に情報が来る。通行止めの場所があるか。各山岳会へ問い合わせができる状態にするべき連絡先、名前などは出すべき。
- ・ **ネットを使わない**人々（外国人含め）→ **ビジターセンター**重要。十勝富良野岳での**現地**情報発信。望岳台が重要になりつつある。
- ・ **ガイドブック**などの紙媒体での情報にどれだけ載せるよう努力をしているのか。編集時期に合わせた情報提供。
- ・ 現場での掲示板などによる情報発信。登山者が情報を書くやり方。
- ・ 関係者間の情報共有も必要。

② 「一元的な情報発信の取組」以外の課題等について意見

- ・ 管理活動の情報発信
- ・ 不適切な利用を誘発するような発信
- ・ 情報→登山道の管理者の判断→国立公園・HP管理（環境省）の判断。
↑ その時点でリアルタイムはでない？

- ・ 火山関係情報の提供

議論したいテーマに関するアンケート結果について

- 15票** 登山者・利用者に対する登山道状況の情報提供（可視化・一元化）
- 10票** 外国人登山者・利用者に対する情報提供(見所や登山道の情報)
- 9票** 登山道、老朽化した施設の補修に関する資金の確保
- 5票** 登山道の適切な維持管理の実施に必要な基盤形成（未執行区間の解消）と円滑な手続きについて
- 4票** 登山道補修技術の関係者・団体間での共有
- 4票** 管理運営に関わる者の人材育成
- 4票** 避難小屋等施設を整備又は改修に関する、関係者・利用者などへの情報提供のあり方
- 1票** 登山者・利用者に対する利用マナーの指導

議論したいテーマに関するアンケート結果について

その他、登山道関係者で議論したいテーマについて

- 入山料の検討
- 登山者も含めた情報収集について
- 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言実現に向けた取組
- 登山道のあるべき姿（補修優先箇所および補修の具体目標）について
- NPO等の民間が事業執行者になることの定義、明確な道のりや無償で借り受け出来る体制作りについて
- 安全登山啓発活動について